

千葉県における気候変動影響と適応の取組方針（案）の概要

温室効果ガスの排出をできる限り抑制したとしても世界の平均気温は上昇し、21世紀末に向けて気候変動の影響のリスクが高くなると予測されています。

この避けられない気候変動の影響に対し被害を回避・軽減する「適応」を進めるため、千葉県における気候変動の影響を整理し、県の適応の取組方針を策定します。

1 位置づけ・対象期間

千葉県地球温暖化対策実行計画に基づき適応を進めるため、21世紀末頃までの長期的な影響を意識しつつ、2030年度程度までの県施策の取組方針を示すもの

2 適応の考え方

- 既に現れている気候変動の影響や中長期的に避けられない影響に対し「適応」していく
- 気候変動の影響の現状や将来のリスクを把握し、長期的な視点に立ち、社会、経済、環境システムの脆弱性を低減して強靱性を確保していく
- 気候変動による影響予測には不確実性があることを前提に、最新の情報を収集し知見を蓄積しつつ、順応的な管理により柔軟に施策を見直ししていく

3 千葉県における気候変動の現状

【年平均気温の上昇】

銚子地方気象台の観測では年平均気温が100年あたり1℃の上昇

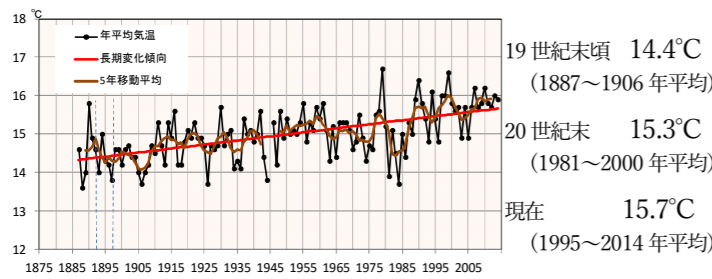


図 銚子地方気象台における年平均気温の経年変化

1892年と1897年（図中の青縦破線）に観測場所を移転しており、移転前の数値は補正した値。

出典：「気候変化レポート2015」（H28.3 東京管区気象台）

【大雨事象の増加】

県内17か所のアメダスデータでは、1時間降水量50mm以上の発生回数は増加傾向（40年程度の傾向であり、気候変動による傾向を確認するためには今後のデータの蓄積が必要）

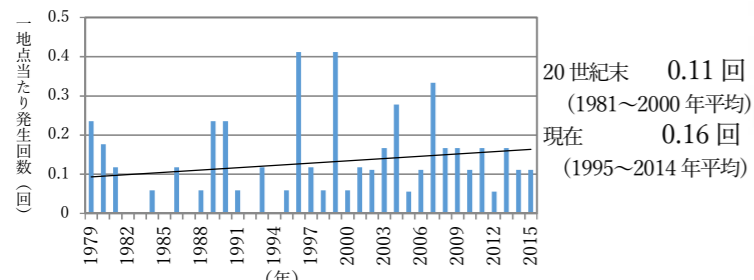


図 千葉県内17地点において時間降水量50mm以上となった回数（1地点あたり）の経年変化

直線は2次帰帰による近似直線。回数は1地点当たりの平均。（気象庁HPのアメダスデータをもとに県作成）

【真夏日の増加】

銚子地方気象台の観測では日最高気温が30℃以上となる日数（真夏日日数）が増加

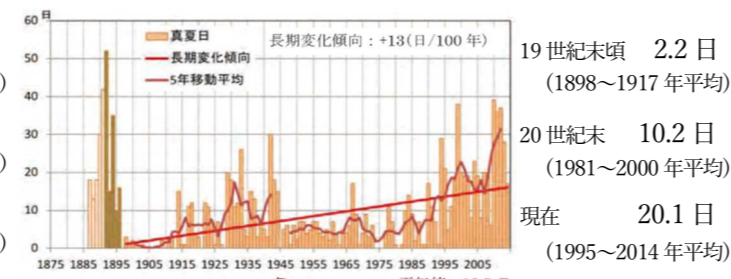


図 銚子地方気象台における真夏日日数の経年変化

1892年と1897年に観測場所を移転しており、移転前の日数は補正を行っていない。そのため、1897年以前は長期変化傾向の計算を行っていない。

出典：「気候変化レポート2015」（H28.3 東京管区気象台）

【海面水位（日本沿岸）】

日本沿岸の海面水位は明瞭な変化傾向が見られていない（1980年代以降は上昇傾向）

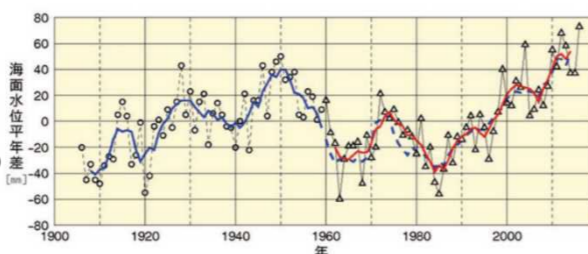


図 日本沿岸の年平均海面水位の経年変化

1906～1959年が日本4地点（北海道忍路、石川県輪島、島根県浜田、宮崎県細島）、1960年以降は16地点の検潮所の観測値。青色の実線は4地点の5年移動平均値、1960年以降の青色破線も同4地点の5年移動平均値である。年平均値は1981～2010年の平均値。平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の影響を受けた4地点（函館、深浦、柏崎、八戸）は2011年以降のデータを使用していない。

気象庁HP「海洋の健康診断表：日本沿岸の海面水位の長期変化傾向」（H29.3）から

4 千葉県における気候変動の将来予測（21世紀末頃）

【年平均気温の上昇】

年平均気温が
4.2～5.0℃上昇
(RCP8.5)※1

【真夏日増加】

真夏日日数が
約40日増加
(RCP6.0相当)※1

【大雨事象の増加】

1時間降水量50mm
以上発生回数が
約4倍に増加
(RCP6.0相当)※1

【海面水位の上昇】

日本沿岸の
平均海面水位が
約60cm上昇
(RCP8.5)※1

20世紀末頃
()内は予測の
基準となる年

(銚子市)
15.3℃
(1981～2000年平均)

(県平均)
約29日
(1980～1999年平均)

(県平均)
約0.1回/地点
(1980～1999年平均)

(比較値なし)
(1981～2000年平均)

21世紀末頃
()内は予測年

約20℃※2
(2081～2100年平均)

約69日
(2076～2095年平均)

約0.4回/地点
(2076～2095年平均)

58cm 上昇
(2081～2100年平均)

※1 RCP：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次報告書で設定された温室効果ガス排出のシナリオ。RCP8.5は最も排出量が多いシナリオ、RCP6.0は中間の排出のシナリオ。その他、中間のRCP4.5及び気温上昇2℃未満以下を満たすRCP2.6の排出シナリオがある。

※2 銚子市における20世紀末の観測値に、気候モデルMIROCにおけるRCP8.5の場合の予測値を単純加算した場合の値。

出典等：気温の上昇、海面水位の上昇：S 8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究2014報告書及び2015年時点の公表データ。年平均気温は気候モデルMIROCの予測値。平均海面水位は3つの気候モデルの平均値。

真夏日増加、大雨事象の増加：「気候変化レポート2015」（H28.3 東京管区気象台）

5 各分野の主な将来の影響と適応の取組方針

分野	主な将来の影響	取組方針
農業・林業・水産業	米の品質低下等、水稲の生育への影響 病害虫による被害拡大懸念	高温障害軽減のための技術の開発・普及、病害虫発生予察等
水環境・水資源	印旛沼など閉鎖性水域の水質悪化等懸念 海面上昇による干潟や浅場の減少 渇水の深刻化懸念	気候変動影響の調査と水質改善の取組推進 東京湾における干潟等の保全の推進 水資源の有効利用や渇水時対策の推進
自然生態系	冷温帯性植物の急激な減少 生物の個体数や分布の変化 外来生物の侵入・定着リスク増大	モニタリングによる変化の把握、気候変動以外の要因も含むストレスの低減による健全な生態系の保全、特定外来生物の防除対策の推進
自然災害・沿岸域	大雨事象の発生頻度(水害の発生リスク)増加 高波・高潮のリスク増大 砂浜の減少など海岸侵食	社会資本総合整備計画の推進・防災対策の推進 潮位や波浪等の継続的な把握 急激な侵食が予想される海岸への対策推進
健康	熱ストレスによる死亡リスクの増加 熱中症搬送者数の増加懸念	暑さに弱い高齢者や子ども、暑さに慣れていない外国人への熱中症予防の普及啓発等の推進
産業・経済活動	夏季の観光快適度低下等、観光への影響	変化する地域の状況や旅行者ニーズの把握
県民生活・都市生活	熱帯夜日数の増加等、生活への影響	ヒートアイランド対策等の推進